

令和4年度 中学部 1年 (II課程A類型 ABグループ) 理科 年間指導計画

単位数 /配当時数	児童生徒	担当者	教科書/副教材
70	中学部1年1・2・3・4組 (24名)		副教材：おきなわの理科3年

目標：(知及技)知識及び技能 (思判表力)思考力、判断力、表現力等 (学・人)学びに向かう力・人間性等
 評価：(知・技)知識・技能 (思・判・表)思考・判断・表現 (主学)主体的に学習に取り組む態度

年間目標		(知及技) 自然の事物・事象について気付き、観察・実験等に関する初歩的な技能を身に付けるようにする。(中理科1段階) (思判表力)観察・実験などを行い、主に差異点や共通点に気付き、疑問を持ち表現する力を養う。(中理科1段階) (学・人) 自然を愛する心情を養うとともに、学んだことを日常生活などに生かそうとする態度を養う。(中理科1段階)			
学期	時数	単元・題材の目標	単元・題材の評価規準	単元・題材名	単元・題材の活動内容
1 学期	14	(知及技)身の回りの生物の様子について気付き、観察・実験などに関する初歩的な技能を身に付けるようにする(中理科A生命1段階ア身の回りの生物(ア)) (思判表力)身の回りの生物の様子から、主に差異点や共通点に付き、疑問を持つことができる。(中理科A生命1段階ア身の回りの生物(イ)) (学・人)身の回りの生物の様子について進んで調べ、生物を愛護し、学んだことを日常生活などに生かそうとすることができる。(中理科A生命1段階ア身の回りの生物(ウ))	(知・技)生物は色、形、大きさなど、姿に違いがあることや昆虫や植物の育ち方には一定の順序があることを理解し、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けている。 (思・判・表)身の回りの生物について調べる中で、差異点や共通点に気付き、生物の姿についての疑問を持ち、表現しようとしている。 (主学)身の回りの生物の様子について進んで調べ、生物を愛護し、学んだことを日常生活などに生かそうとしている。	【身の回りの生物】 ・身の回りには植物や昆虫を調べてみよう。 ・植物を育てよう	身の回りの生物について、探したり育てたりする中で、生物の姿に着目して、それらを比較しながら調べる活動を行う。 ・虫眼鏡の使い方を学ぶ。 ・校内を散策し植物や昆虫などを観察したり、図鑑やインターネットを使って調べたりする。 ・採取した草花の押し花を作成する。 ・身近な植物や動物について、特徴等の調べ学習を行う。 ・朝顔等の植物を栽培し、からだのつくりや成長の様子を観察し、まとめる。(色、形、大きさ、特徴等)
	8	(知及技)物の性質について気付き、観察・実験結果に関する初歩的な技能を身に付けている。(中理科C物質・エネルギー1段階ア物と重さ(ア)) (思判表力)物の性質について調べる中で、主に差異点や共通点に気付き、疑問を持つことができる。(中理科C物質・エネルギー1段階ア物と重さ(イ)) (学・人)物の性質について進んで調べ、学んだことを日常生活などに生かそうとすることができる。(中理科C物質・エネルギー1段階ア物と重さ(ウ))	(知・技)物は、形が変わっても重さは変わらないことや体積が同じでも重さは違うことがあるということを理解し、観察や、実験などに関する初歩的な技能を身に付けている。 (思・判・表)物の形や体積と重さとの関係について調べる中で、差異点や共通点に気付き、物の性質についての疑問を持ち、表現しようとしている。 (主学)物の性質について進んで調べ、学んだことを日常生活などに生かそうとしている。	【物と重さ】 ・ものの重さを比べてみよう	物の性質について、形や体積に着目して重さを比較しながら調べる活動を行う。 ・はかり(天秤)の使い方を学ぶ。 ・実験を通して、形が変わっても重さが変わらないことを確認する。 ・実験を通して体積は同じでも重さが違うことがあることを確認する。 ・重さ(質量)の単位を確認する。
2 学期	14	(知及技)身の回りの生物の様子について気付き、観察・実験などに関する初歩的な技能を身に付けている(中理科1段階A生命ア身の回りの生物(ア)) (思判表力)身の回りの生物の様子から、主に差異点や共通点に気付き、疑問を持つ力を養う。(中理科1段階A生命ア身の回りの生物(イ)) (学・人)身の回りの生物の様子について進んで調べ生物を愛護し、学んだことを日常生活などに生かそうとすることができる。(中理科1段階A生命ア身の回りの生物(ウ))	(知・技)虫眼鏡や顕微鏡の基本的な使い方が分かり、それらを使って小さな生き物や身近な生き物のからだのつくりを調べたり、昆虫や植物の育ち方には一定の順序があることに気付き、観察したものをわかりやすく記録したりまとめたりしている。 (思・判・表)身の回りの生物について調べる中で、差異点や共通点に気付き、生物の姿についての疑問を持ち、表現しようとしている。 (主学)身の回りの生物の様子について進んで調べ生物を愛護し、学んだことを日常生活などに生かそうとしている	【身の回りの生物】 ・顕微鏡でのぞいてみよう～身の回りの生き物のようす～ ・生き物の育ち方には順序があるのかな?	身の回りの生物について、生物の姿や淡水や土壌に産む小さな生き物に着目し、顕微鏡などで詳しく観察、比較しながら調べる活動を行う。 ・肉眼では観察しにくい淡水や土壌の小さな生き物について、ルーペや顕微鏡を使って観察したり、身近な動植物のからだのつくりを観察する。 ・身の回りの淡水や土壌等にも生き物が共存していることを確認する。 ・生物の成長の観察やインターネット等を利用して植物や昆虫の育ち方には一定の順序があることに気付く活動を行う。 ・昆虫のからだのつくりや成長の様子を観察し、記録する。(色、形、大きさ、特徴等) ・植物や昆虫の成長の過程(写真)の順序や表現(発芽・根・茎・葉・つぼみ、卵・幼虫・成虫等)を知る。

	14	<p>(知及技)光と音の性質について気付き、観察や実験などに関する初歩的な技能を身に付けている。 (中理科C物質・エネルギー1段階ウ光や音の性質(ア)) (思判表力)光や音の性質について調べる中で、主に採点や共通点に気付き、疑問を持つことができる。 (中理科C物質・エネルギー1段階ウ光や音の性質(イ)) (学・人)光や音の性質について進んで調べ、学んだことを日常生活などに生かすことができる。 (中理科C物質・エネルギー1段階ウ光や音の性質(ウ))</p>	<p>(知・技)日光が直進することや物の明るさや温かさが変わることを、物から音が出たり伝わったりするとき、物は震えていることを理解し、観察や実験などに関する初歩的な技能を身に付けている。 (思判表力)光を当てた時の明るさや暖かさの様子、音を出した時の震え方の様子について調べる中で、差異点や共通点に気付き光や音の性質についての疑問を持ち、表現しようとしている。 (主学)光や音についての事物・現象に進んで関わり、学んだことを日常生活に生かそうとしている。</p>	<p>【光や音の性質】 ・鏡を使って日光で遊ぼう ・音が出るものはふるえているの？ ・糸電話をつくってみよう</p>	<p>光や音の性質について、光を当てたときの明るさや温かさ、音を出した時の震え方に着目して、光の強さや音の大きさを変えた時の違いを比較しながら調べる活動を行う。 ・鏡を使って日光で集光・反射を体験する。 ・日光が直進することや日光を当てると物が明るくなることや暖かくなることを確認する。 ・ギター、スピーカー等の振動を体験し、音の大きさを変えたときの現象の違いを確認する。 ・糸電話を作る。 ・音の伝わり方を確認する。</p>
3 学期	20	<p>(知及技)風やゴムの力の働きについて気付き、観察・実験などに関する初歩的な技能を身に付けている。 (中理科C物質・エネルギー1段階イ風やゴムの力の働き(ア)) (思判表力)風やゴムの力の働きについてについて主に差異点や共通点に気付き、疑問を持つことができる。 (中理科C物質・エネルギー1段階イ風やゴムの力の働き(イ)) (学・人)風やゴムの力の働きについて進んで調べ、学んだことを日常生活などに生かそうとすることができる。 (中理科C物質・エネルギー1段階イ風やゴムの力の働き(ウ))</p>	<p>(知・技)風やゴムの力は、物を動かすことができること、また、力の大きさを変えると、物が動く様子も変わること理解し、観察・実験などに関する初歩的な技能を身に付けている。 (思・判・表)風やゴムの力で物が動く様子について調べる中で、差異点や共通点に気付き、風やゴムの力の働きについての疑問を持ち、表現しようとしている。 (主学)風とゴムの力の働きについての事物・現象に進んで関わり、学んだことを日常生活などに生かそうとしている。</p>	<p>【風やゴムの力の働き】 ・風の力を利用したおもちゃをつくろう ・ゴムの力を利用したおもちゃをつくろう</p>	<p>風やゴムの力の働きについて、力と物の動く様子に着目して、それらを比較しながら調べる活動を行うようにする。 ・風で遊ぼう(凧揚げ、風車等) ・風で動くおもちゃで遊び、風が物を動かす力を持っていることを確認する。 ・風の力の大きさと物の動く様子の関係性を調べる。 ・ゴムで遊ぼう(ゴムで動くおもちゃの制作) ・ゴムで動くおもちゃで遊び、ゴムが物を動かす力を持っていることを確認する。 ・ゴムの力の大きさと物の動く様子の関係性を調べる。</p>
留意点 引継ぎ等					

令和5年度 中学部 1年 (II課程B類型) 理科 年間指導計画

単位数 /配当時 数	児童生徒	担当者	教科書/副教材
70	中学部1年5・6・7組 (14名)		副教材: こどものずかん⑧ あそびのずかん

目標: (知及技)知識及び技能 (思判表力)思考力、判断力、表現力等 (学・人)学びに向かう力・人間性等
 評価: (知・技)知識・技能 (思・判・表)思考・判断・表現 (主学)主体的に学習に取り組む態度

年間目標		(知及技) 自然の事物・事象について気付き、観察・実験等に関する初歩的な技能を身に付けるようにする。(中理科1段階) (思判表力) 観察・実験などを行い、主に差異点や共通点に気付き、疑問を持ち表現する力を養う。(中理科1段階) (学・人) 自然を愛する心情を養うとともに、学んだことを日常生活や社会生活などに生かそうとする態度を養う。(中理科1段階)			
学期	時数	単元・題材の目標	単元・題材の評価規準	単元・題材名	単元・題材の活動内容
1 学期	22	(知及技) 身近な生命や自然について知る。(小生活2段階サ生命・自然(イ)) (思判表力) 身近な生命や自然の特徴や変化が分かり、それらを表現することができる。(小生活2段階サ生命・自然(ア)) (学・人) 身近な自然に関心を持ち、自然に自ら働きかけようしたり、意欲や自信を持って学んだり、生活に生かそうとしたりすることができる。(小生活2段階サ生命・自然) ※中理科1段階A生命ア身の回りの自然と関連付ける	(知・技) 校庭の散策や植物栽培や飼育活動をする中で、教師と一緒に調べたり、説明等を聴こうとしている。 (思・判・表) 植物や動物の観察を通して気付いたことを、教師と一緒に伝えようとしている。 (主学) 植物や動物の観察に関心を持ち、身近な自然を愛護しようとしている。 【評価資料】 活動の様子、発言、ワークシート等	【身の回りの生物】 ・身の回りにいる植物や昆虫を調べてみよう ・植物を育てよう	植物の栽培や動物の観察や校庭の散策など生き物への興味・関心を持つことや天候の変化、季節の特徴に関心を持つことなどに関わる学習活動を行う。 ・校内を散策し植物や昆虫などを観察したり、図鑑やインターネットを使って名前を調べたりする。 ・植物を栽培し、からだのつくりや成長の様子を観察して記録する。(色、形、大きさ、特徴等) ・採取した草花の押し花を作る。 ・インターネットの活用や野外活動を通して動物の種類やすみか、食べ物等の生態を調べる。 ・身の回りの生き物や植物と触れ合う体験活動をする。
2 学期	16	(知及技) 顕微鏡のはたらきや身近な自然について知る。(小生活2段階サ生命・自然(イ)、シもの仕組みと働き(イ)) (思判表力) 身近な生命や自然の特徴や変化が分かり、それらを表現することができる。(小生活2段階サ生命・自然(ア)、シもの仕組みと働き(ア)) (学・人) 身近な自然に関心を持って関わろうとしたり、意欲や自信を持って学んだり、生活に生かそうとしたりすることができる。(小生活2段階サ生命・自然、シもの仕組みと働き) ※中理科1段階A生命ア身の回りの自然と関連付ける	(知・技) 顕微鏡の使い方について教師の説明を聞き、顕微鏡を使って淡水や土壌にすむ小さな生物や身近な生物のからだのつくりを調べようとしている。また、昆虫や植物の育ち方には一定の順序があることについて教師の説明を聞いたり質問に答えようとしている。 (思・判・表) 飼育栽培や観察をする中で、身近な動植物や自然の特徴などに気付き、教師と一緒にワークシートにまとめたり発表しようとしている。 (主学) 身近な自然に興味を持って調べようとしたり、意欲や自信を持って学んだり、生活に生かそうとしている。 【評価資料】 活動の様子、発言、ワークシート等	【身の回りの生物】 ・顕微鏡でのぞいてみよう ～身の回りの生き物のようす～ ・生き物の育ち方には順序があるのかな?	植物の栽培や校庭の散策など生き物への興味・関心を持つことや天候の変化、季節の特徴に関心を持つことなどに関わる学習活動を行う。 ・肉眼では観察しにくい淡水や土壌の小さな生き物について、ルーペや顕微鏡を使って観察する。昆虫や植物のからだのつくりや成長の様子を観察し、記録する。(色、形、大きさ、特徴等) ・植物や昆虫の育ち方(飼育・観察や観察記録の活用、視聴覚教材等) ・植物や昆虫の成長の過程の絵カード(写真)を順序に沿って並べたり、それぞれの過程の表現(発芽・根・茎・葉・つぼみ、卵・幼虫・成虫等)を知る。
	12	(知及技) 身近にある物と重さについて知る。(小生活2段階シもの仕組みと働き(イ)) (思判表力) 身近にある物の重さについて調べる中で、気付いたことを表現しようとするすることができる。(小生活2段階シもの仕組みと働き(ア)) (学・人) 生活の中で重さを意識して協力して活動できる。(小生活2段階シもの仕組みと働き)	(知・技) 実験や体験を通して重い、軽いが分かり、教師の説明を聞いたり質問に答えようとしている。 (思・判・表) 興味を持って重さの比較をし、気付いたことを表現しようとしている。 (主学) 生活の中で重さを意識したり協力して活動しようとしている。 【評価基準】 表情や仕草、発表の様子等	【物と重さ】 ・ものの重さを比べよう	身近な生活の中で、物の仕組みなどに関わる学習活動を行う ・はかり(天秤)について ・物体の比較の中で「重い」「軽い」を感じる ・好きな形でものの重さを量り、形が変わっても重さが変わらないこと(同じ)を確認する。(粘土やアルミニウムはく等) ・同じ体積(かさ)で色々な種類の物質の重さを比較する。(食塩と砂糖、飲料水など)

3 学期	20	<p>(知及技) 風やゴムのはたらきについて知る。(小生活2段階シものの仕組みと働き(イ)) (思判表力) 風やゴムの働きを調べる中で、気付いたことを表現しようとする事ができる。(小生活2段階シものの仕組みと働き(ア)) (学・人) 風やゴムの働きについて興味関心を持って学び、生活の生かそうとすることができる。(小生活2段階シものの仕組みと働き)</p>	<p>(知・技) 風やゴムの力は物を動かしたり、風やゴムの力の大きさを変えると、物が動く様子も変わることを調べたり、教師の説明を聞いたり質問に答えようとしている。 (思・判・表) 風やゴムの働きを調べる中で、気付いたことをワークシートにまとめたり発表しようとしている。 (学・人) 教師と一緒におもちゃをつかって遊んだり、意欲的に実験しようとしたり、学んだことを生活に生かそうとしている。</p> <p>【評価資料】活動の様子、発言、ワークシート等</p>	<p>【風やゴムの力の働き】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・風で遊ぼう ・ゴムで遊ぼう 	<p>身近な生活の中で、物の仕組みなどに関わる学習活動を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・風で動くおもちゃ(凧揚げ、風車等)で遊び、風が物を動かす力を持っていることを確認する。 ・風の力の大きさと物の動く様子の関係性を調べる。 ・ゴムで動くおもちゃを制作し、ゴムが物を動かす力を持っていることを確認する。 ・ゴムの力の大きさと物の動く様子の関係性を調べる。
留意点 引継ぎ等					